



GENERATIVE STUDIES

生成学



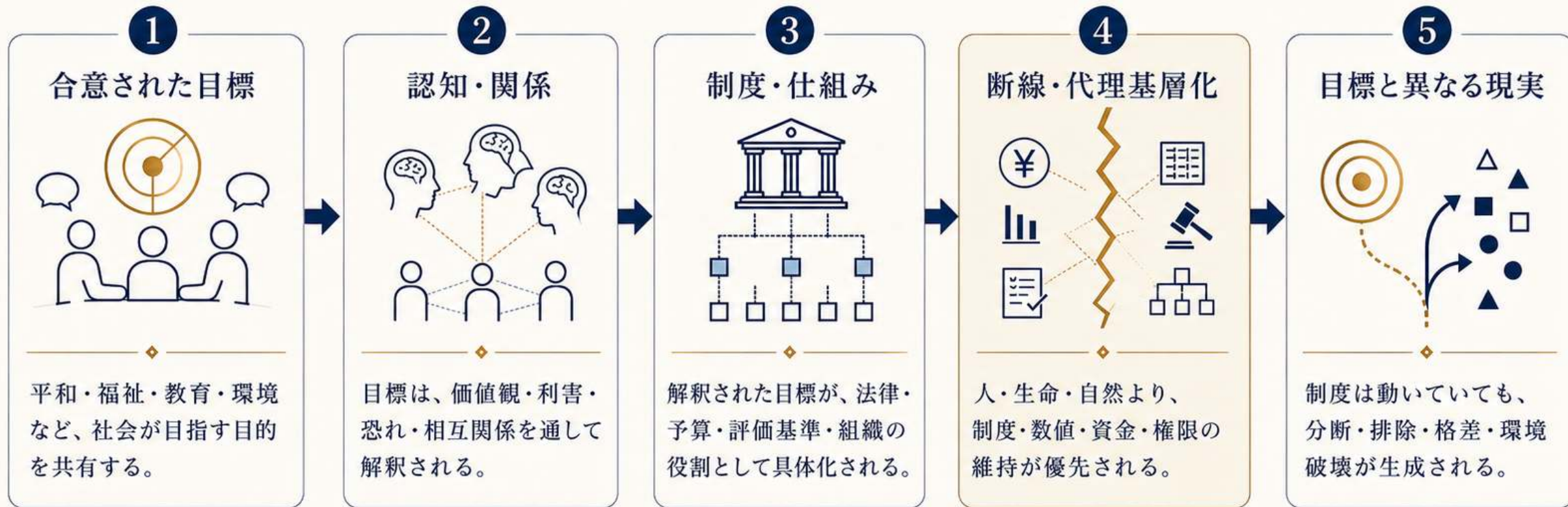
— SDGsと平和構築 —

合意された目標を、現実へつなぐ生成構造



なぜ、合意された目標は実現しないのか

◆ 目標は、人間・組織・国家の認知・関係・制度を通して、現実へと変換される。◆



問題は、目標の正しさではない。目標が現実になるまでの生成過程にある。





目標と生成構造の反転

◆ 掲げられた目標が、途中の生成過程によって、反対の現実を生み出す。◆

掲げられた目標	生成過程の断線・反転	実際に生成される現実
 平和	異質な意見を排除する  →	 分断
 支援	利用者より制度維持を優先する  →	 支援の形骸化
 教育	子どもの生成より数値評価を優先する  →	 可能性の抑制
 経済成長	生命・自然の基盤を後回しにする  →	 基盤の破壊
 対話	理解より相手の操作を優先する  →	 関係の断線
 制度・貨幣	現実の人や生命より上位に置く  →	 基盤化の反転

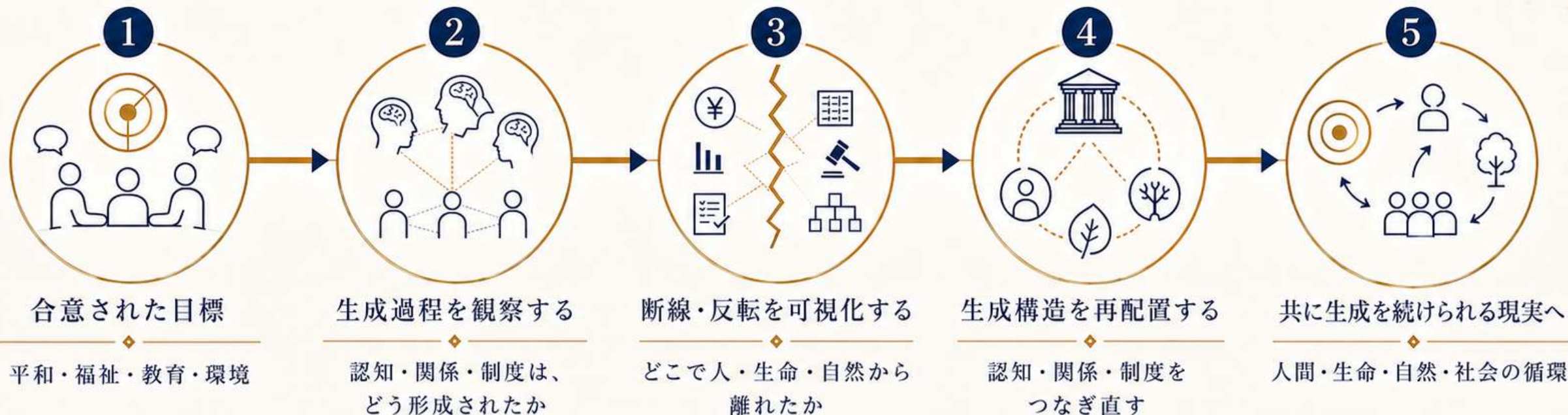


『目標と生成構造の反転』が、SDGsを止めている。



生成学は、何をする学術なのか

◆ 生成学は、新しい目標を追加するのではなく、目標が現実として生成されるための構造を研究する。◆



可視化する

目標が反転するまでの
生成過程を捉える。



つなぎ直す

断線した認知・関係・制度を、
基層へ戻して再配置する。



生成条件を設計する

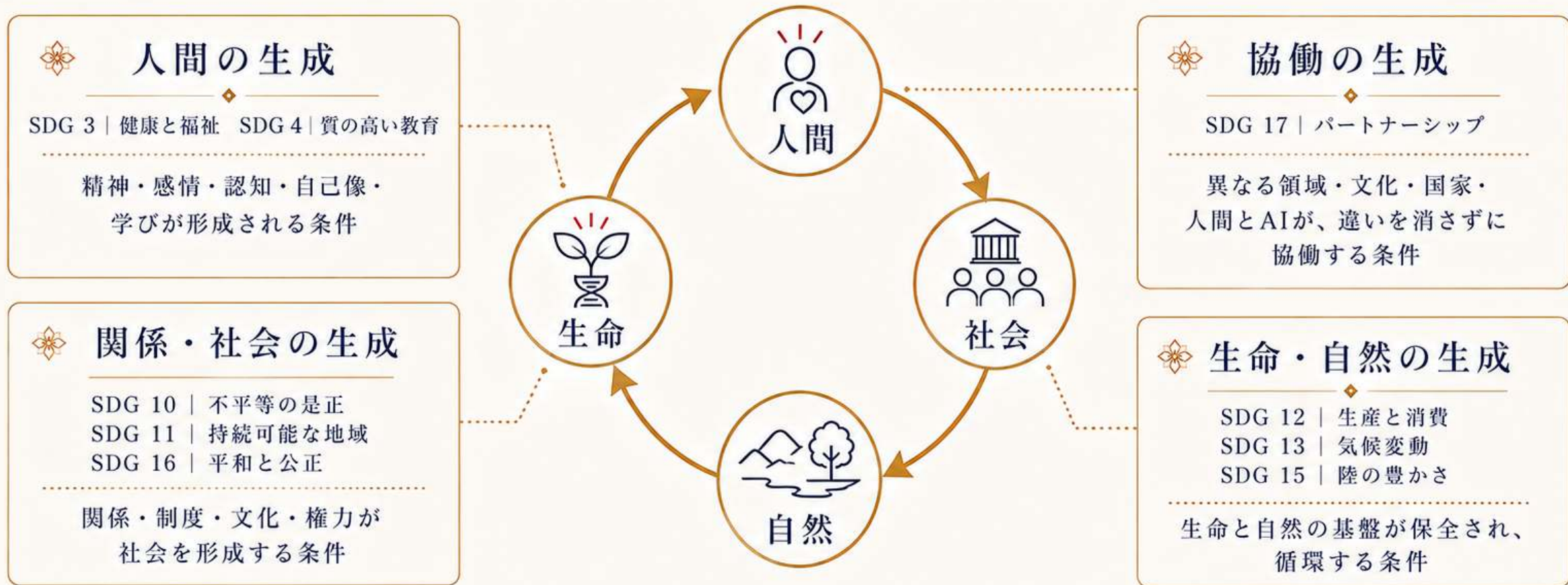
人・生命・自然・社会が、
共に生成を続けられる条件をつくる。

生成学は、目標が現実として生成される条件を探究する学術である。



生成学は、SDGsをどう捉えるのか

◆ SDGsの17の目標は、人間・生命・自然・社会を貫く、一つの生成循環の異なる現れである。◆



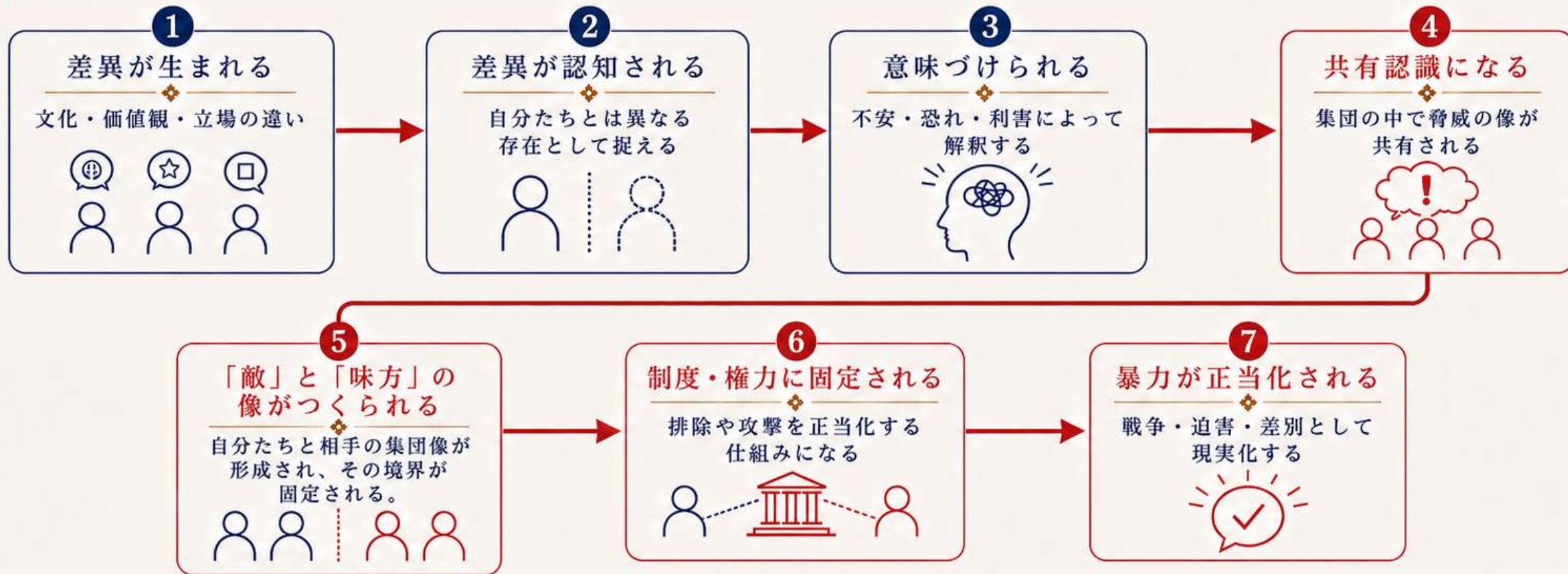
◆ 生成学は、複数のSDGsを個別課題としてではなく、一つの生成循環として接続する。◆





暴力は、どのように生成されるのか

❖ 戦争や暴力は、ある日突然、無から発生するのではない。❖



❖ 個人の認知が共有認識となり、制度へ固定され、現実の暴力を生成する。 ❖

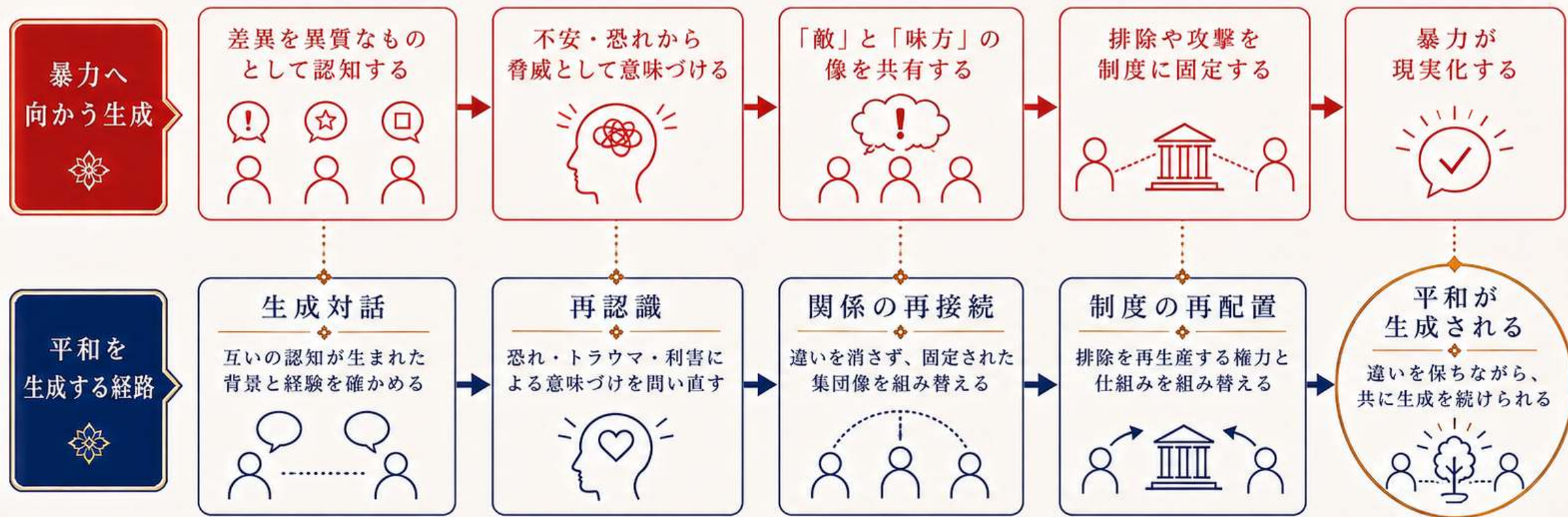
戦争や暴力は、認知・関係・共有認識・制度を通して生成される。





生成学による平和構築

❖ 暴力が現実化する前に、認知・関係・共有認識・制度の生成過程へ働きかける。❖



❖ 平和は、暴力が起きた後に戻す状態ではなく、生成過程の中でつくられる。 ❖

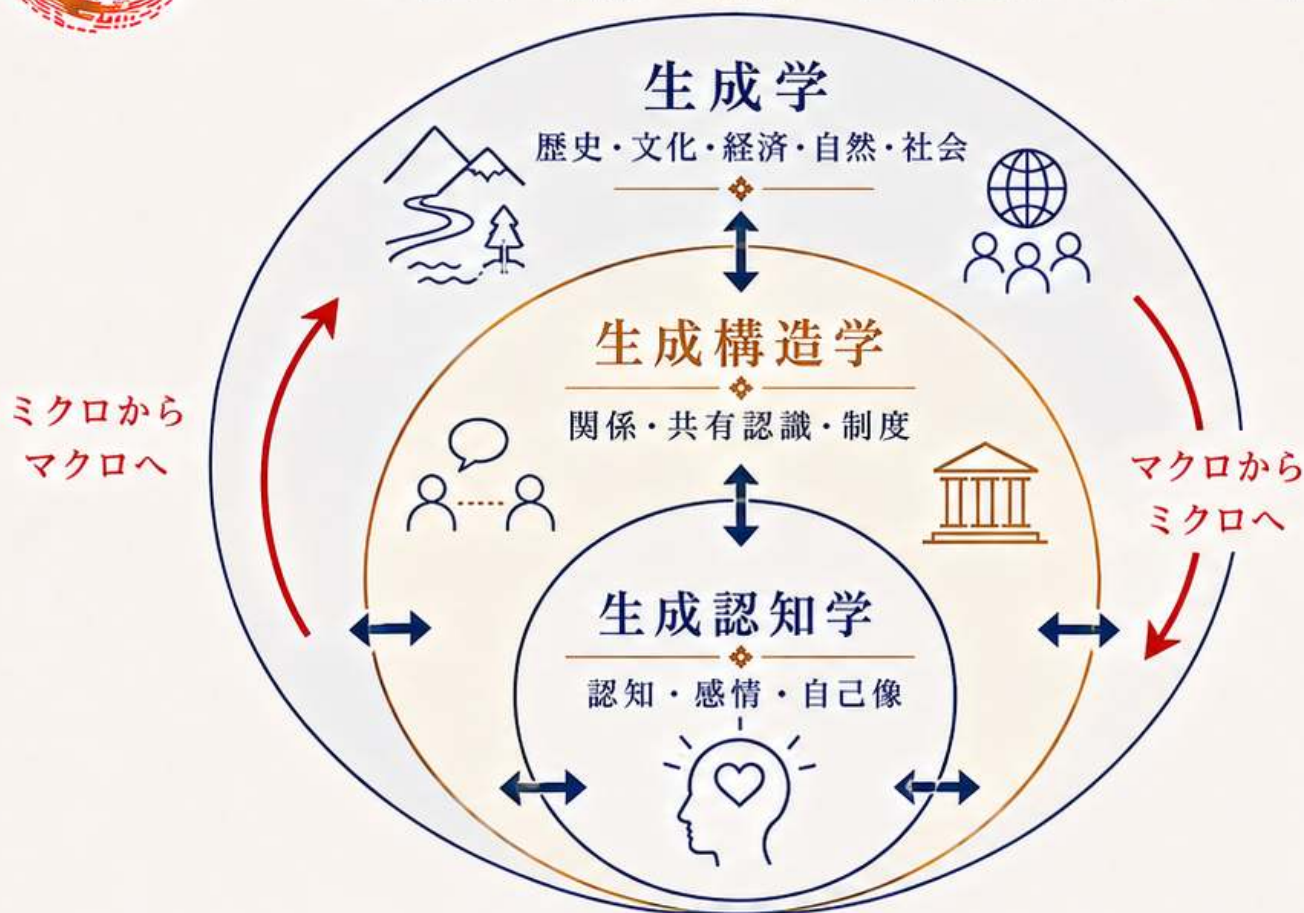
❖ 平和構築とは、暴力を生む生成構造を、平和を生む生成構造へ組み替えることである。❖





平和構築を、多層の生成として捉える

❖ 認知・関係・制度・社会全体は、互いに作用しながら、進み、戻り、変化する。❖



1

生成認知学



- ❖ なぜ相手を脅威として認知するのか
- ❖ 恐れやトラウマが、どう意味づけに作用するのか
- ❖ 「敵」と「味方」の像が、どう立ち上がるのか

2

生成構造学



- ❖ 対立は、どの段階で固定されたのか
- ❖ どこで情報や関係が断線したのか
- ❖ どの制度が、対立を再生産しているのか

3

生成学



- ❖ 歴史・文化・経済・自然環境を含む全体
- ❖ 教育・福祉・地域・国際関係の接続
- ❖ 人間とAIの共同知性による探究

❖ 生成過程は直線ではない。個人の認知が社会構造をつくり、社会構造が再び個人の認知へ作用する。 ❖



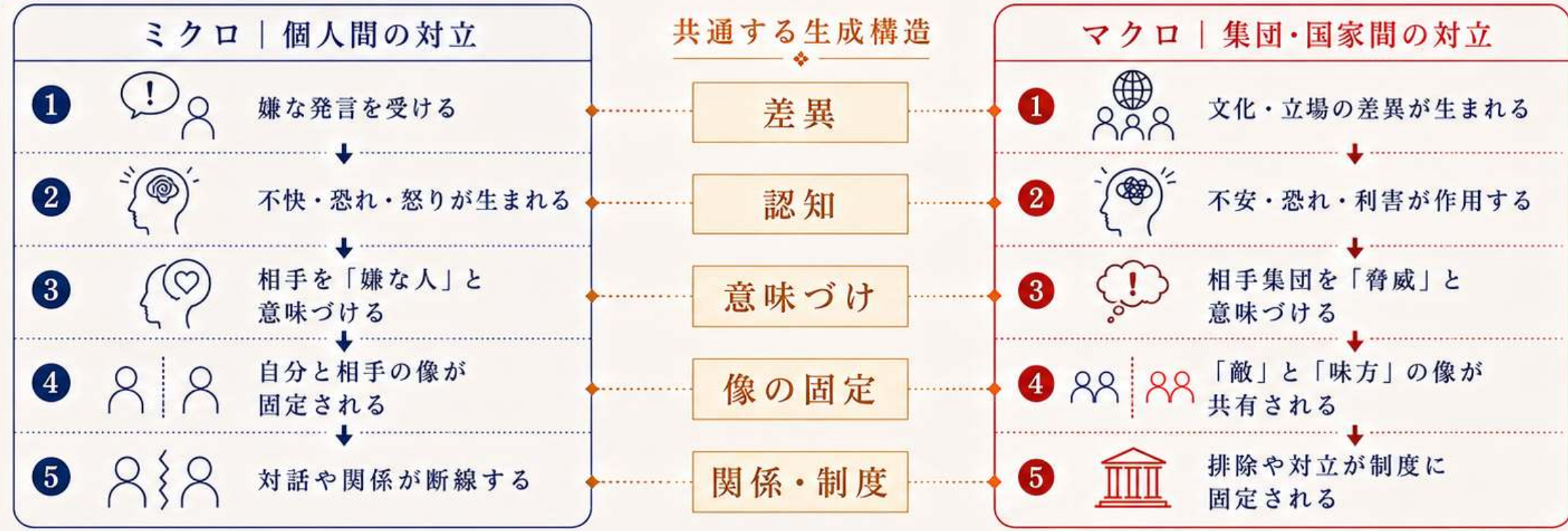
平和構築とは、複数の層が影響し合う生成循環を捉え、再配置することである。





ミクロとマクロに現れる、共通の生成構造

❖ 個人間の小さな対立と、集団・国家間の大きな対立には、共通する生成構造がある。❖



❖ 生成学からの問い ❖

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ❖ 1 その言葉や行動は、なぜ生まれたのか | ❖ 4 どこで意味や関係が断線したのか |
| ❖ 2 自分は、何を不快・脅威と感じたのか | ❖ 5 どの像や制度が、対立を再生産しているのか |
| ❖ 3 どんな経験や背景が、認知に作用したのか | |

 日常の認知を見つめ直すことと、社会の対立構造を読み解くことは、異なる規模に現れた同じ生成の探究である。





生成学を、社会でどう用いるのか

❖ 生成を止める構造を見つけ、つなぎ直し、現実との照合によって継続的に更新する。❖

生成診断

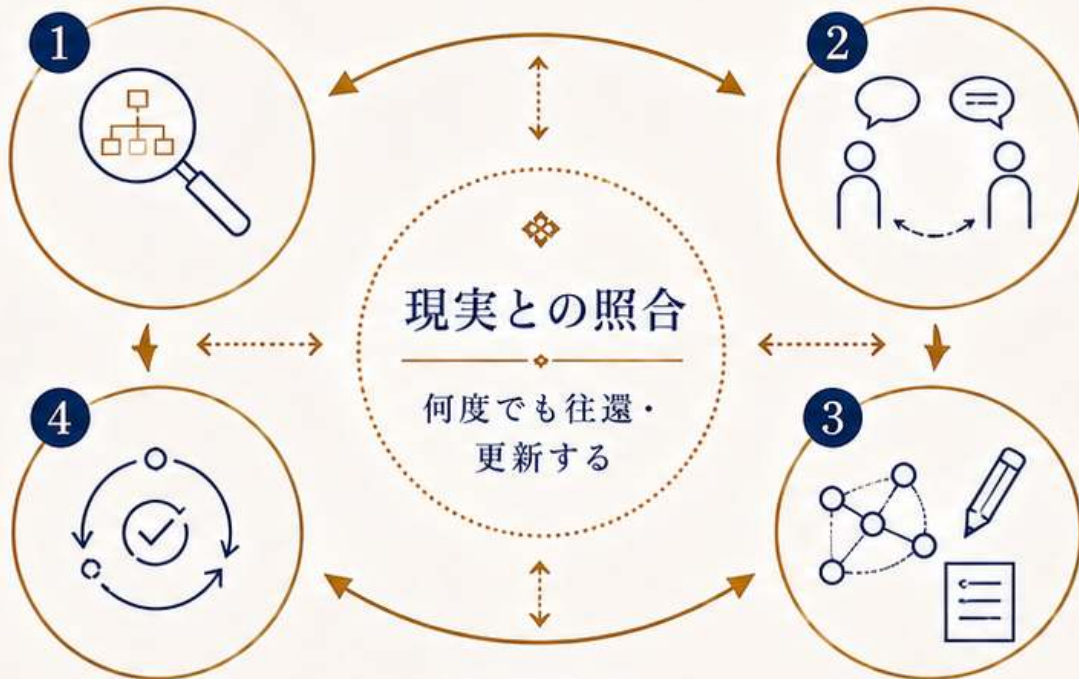
本来の目的が、どこで
断線・反転したかを分析する。

目標と現実のずれ |
制度維持の自己目的化

生成評価

数値だけでなく、関係・循環・
回復可能性・継承を評価する。

次の生成へつながっているか



生成対話

異なる認知が生まれた
背景まで往還する。

何を見たか | 何を恐れたか |
どこで意味がずれたか

生成設計

人・生命・自然・文化・制度が
共に生成を続けられる
条件を設計する。

現実の人や生命を基層へ戻す

適用領域



教育



福祉



行政



地域



組織



平和構築

❖ どこからでも始められ、必要に応じて前の段階へ戻る。❖



生成学は、構造を完成形として固定せず、現実との照合によって継続的に再配置する。





生成学を、国際的な共同知性へ

❖ 異なる視座・文化・領域を、違いを消さずに接続し、生成構造を共に探究する。

Human-AI共同知性



国際的な知の翻訳



国際的な生成知



接続領域



国際共同研究



SDGs



平和構築



教育



地域文化



Human-AI研究



Human-AI共同知性は、文化や領域を越えて生成構造を探究するための、国際的な知の基盤となる。





生成学が担うもの

生成学は、SDGsと平和構築に、新しい目標を追加する学術ではない。



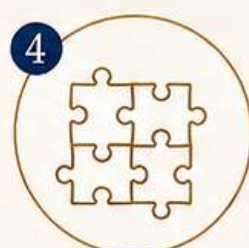
すでに合意された目標
SDGs・平和・福祉・教育・環境



生成過程を探究する
認知・関係・共有認識・制度



断線・反転・固定化を
可視化する



生成構造を再配置する



目標が現実として
生成される条件をつくる



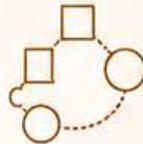
見つける

目標が反転するまでの
生成過程を可視化する



つなぐ

個人と社会、生命と自然、
異なる文化と領域を接続する



組み替える

認知・関係・制度を、
現実の人や生命を基層として
再配置する



育てる

Human-AI共同知性と
国際的な翻訳によって、
生成知を継承・更新する



生成学は、すでに掲げられた目標が、
実際の現実として生成されるための基礎構造を研究する学術になり得る。



❖ 人間・生命・自然・社会が、違いを保ちながら共に生成を続けられる条件を探究する。❖

